

## 福知山市議会「蒼士会」 行政視察研修報告書

- 1 視察日程 令和7年11月17日（月）～18日（火）
  
- 2 視察先及び調査項目
  - (1) 鹿児島県霧島市小浜  
「小浜ヴィレッジについて」
  - (2) 宮崎県都城市志比田町7190  
NPO 法法人ライフサポートセンターHAPPY  
「都城ハッピーハットについて」
  
- 3 参加委員  
高橋正樹、森下賢司、野田晋介、藤本喜章
  
- 4 視察経費 総額 194,350円（1人あたり48,587円）
  
- 5 調査報告  
別紙のとおり

視 察 日	令和7年11月17日（月）
視 察 先	鹿児島県霧島市 人口 122,863人（令和7年9月1日現在） 市面積 603.17km <sup>2</sup> 議員定数 26人
調査項目 施策・取組等	小浜ヴィレッジはコンビニ跡地と耕作放棄地を活用して、地域の工務店が主体となってオフィスや店舗を集めた「村」を作り、民間主導によるビジネスとまちづくりの融合例を調査した。
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	民間企業が主体となって、地域とともに展開するまちづくり事例として選定した。中山間地に立地し、耕作放棄地も活用して誕生させた点も着眼点となった。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の工務店が、将来の建築需要減退を見通して戸建て住宅以外の新しいことに取り組む必要を感じ、過疎化が進む地域に「住む、働く、遊ぶ」を徒歩圏内で完結させて人を呼び込めないか発想された。</li> <li>・構想が霧島市の成長戦略に組み込まれて、事業遂行を応援してもらえたが市からの補助金はなし。木材活用における国の補助金2000万円を受けた。総工費は約6億円。敷地面積は約7,000m<sup>2</sup>。令和6年11月開業。設計事務所、IT企業、人材派遣会社、検査会社など7事業所のオフィスと、ベーカリーショップ、カフェ、大会議室棟がある。</li> </ul>
考察・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開業により、地元客や観光客が気軽に立ち寄れる人気スポットになった。</li> <li>・人を呼び込み、移住者を増やすことも狙いだったため、市の移住補助金施策も相まって、1年間で8世帯30人が小浜地区に移住した。</li> <li>・人口660人、高齢化率52%だった小浜地区に移住者が増えたことで人口増が見られ、児童数33人の地元小学校の過半数が地区外からの児童になった。移住者の雇用にも大きく寄与している。</li> <li>・大会議室は地元公民館と連携して災害時の避難所として開放するようにしている。また、会議室やキッチンを使用して子育てイベントや文化教室などに使ってもらい、地域の交流スポットにもなってきた。朝市やマルシェも行い、地域の人が集いやすい企画を次々と考えている。</li> <li>・総じて、地域に活気が出る仕掛けづくりの拠点になっているようだ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策提言への反映</li> <li>・本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地元の人を増やし、そこで働き、楽しむ」と考えた若い工務店社長の心意気が素晴らしい。</li> <li>・行政から資金援助や補助施策はなかったが、黙って応援してくれて、まちの成長戦略にもなっていることから、民間主導のまちづくり推進のよいモデルケースにもなっているだろう。</li> <li>・このまちづくり事例を市に当てはめるとしても、民間視点の経営者感覚による行動力が必要で、若い斬新な発想が地域を元気にする好例と言える。</li> </ul>

視 察 日	令和7年11月18日（火）
視 察 先	宮崎県市都城市志比田町7190 NPO 法人ライフサポートセンターHAPPY 人口 159,088人（志比田町5,237人）（令和7年11月1日現在） 市面積 65,336 km <sup>2</sup> 議員定数 29人
調査項目 施策・取組等	「単身高齢女性」が主役の新拠点
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	高齢女性専用の「終の棲家」と地域の交流拠点としての役割を持つ新施設のあり方や今後の今後の核家族化にともなう単身高齢者が生涯、不安なく安心して生活できる生活拠点として今後の議員活動、施策の調査研究をしていきたい。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人は2015年にHAPPYを立ち上げ、終活や相続、空き家対策などの支援を展開されてきた。2022年には宮崎県内の高齢女性111人を対象に住環境調査を実施、その中で「子どもが遠方で頼れない」「防犯面が不安」など地元特有の課題に直面。このことを契機に八反田理事長が「どうにかせんといかん」という思いで自立生活支援を目的に高齢女性が安心して暮らせる場所づくりが必要との強い決意で取組まれ、2024年1月に総工費7,500万円（自己資金・銀行借入れ・補助金）</li> <li>・設立趣旨は高齢者の自立生活と充実した終活を支援⇒人生をよりよく豊かなものへと高め⇒明るい社会づくりに寄与</li> <li>・女性は男性に比べて平均寿命が長く、年齢を重ねるにつれて孤立し易い、またこの地域では男性中心の考えが根強く、女性だけの空間の方が安心し、リラックスできると感じる高齢女性が多い」なども踏まえて単身高齢者専用となった。</li> <li>・当初、住居は5戸建てを予定していたが、資金に関係でシェアハウス（2人）、個室（1人）の3名が現在入居。</li> <li>・入居者同士1時間1,600円で有償互助（介護保険利用可）</li> <li>・賃料個室75,000円（月額）</li> <li>・外部的にも生活困窮者の為の借り上げ住宅を整備し、短期居住支援を行い、地域の空きや予防、地域の循環的居住促進を図っている。</li> </ul>
考察・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HAPPYの構成として～可能な限り終の住まいを目指す～その【利用条件】としては異年齢構成・終活実践と任意後見制度。賃貸借契約、有償互助。「フレイル予防スタジオ」</li> <li>1 終活プランニング事業（任意後見・相続含）</li> <li>2 フレイル予防事業（コーラス de フレイル予防）</li> <li>3 空間活用（避難時利用・事務所賃貸）など事業内にとどまらず利用者が地域との関わりを持つことで孤立防止、認知症予防にも努めておられるなどの効果が期待できる。</li> <li>・その地域における地域事情もあろうと思うが、今まで福祉施設は男女共有という認識があり、今回のハッピーハットを視察できたことでその概念が変わった。今後、高齢者の住まいのあり方について大変参考となった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NPO 法人ということで事業費の内、補助金は経済産業省の事業再構築補助金1,941万円、国土交通省「人生100年時代を支える住まい環境整備モデル事業470万3千円のみで、都城市からの補助金支援、運営に関する委託費もなく経営的には非常に厳しいのではと推測する。行政支援の必要性を感じた。(土地代別)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 政策提言への反映</li> <li>• 本市での施策実現に向けた比較研究(効果及び課題)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今回の視察を通して生活困窮者等への短期居住支援などは今後の空き家対策にも有効な活用ができるのでは思うが今後更に調査研究を進めていきたい。</li> <li>• 一人暮らし高齢者がアパート等住居を賃貸する場合、現状では保証人や身元引受人が必要であるなど一定の条件があり借りにくい課題もあるがこの女性専用住居でなくとも都城ハッピーハットのような機能を持った施設があることで一人暮らし高齢者やその家族も安心した生活が送れるのではと思う。このことを踏まえ行政として保障する施策が必要ではないか今後も併せて調査研究したい。</li> </ul>